

経営者と社員とのテレワーク賛否ギャップを解消

～会社側は、テレワークとどう向き合うべきか～



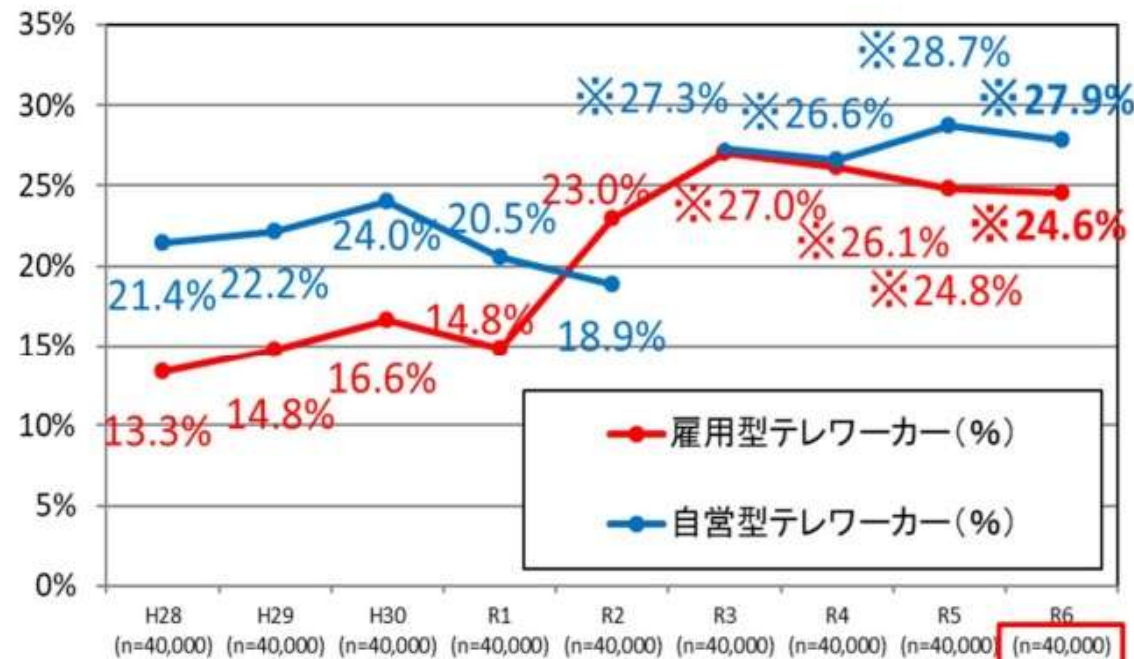
ブライトサイド コーポレーション

ブライトサイド株式会社
代表取締役 武田 斉紀



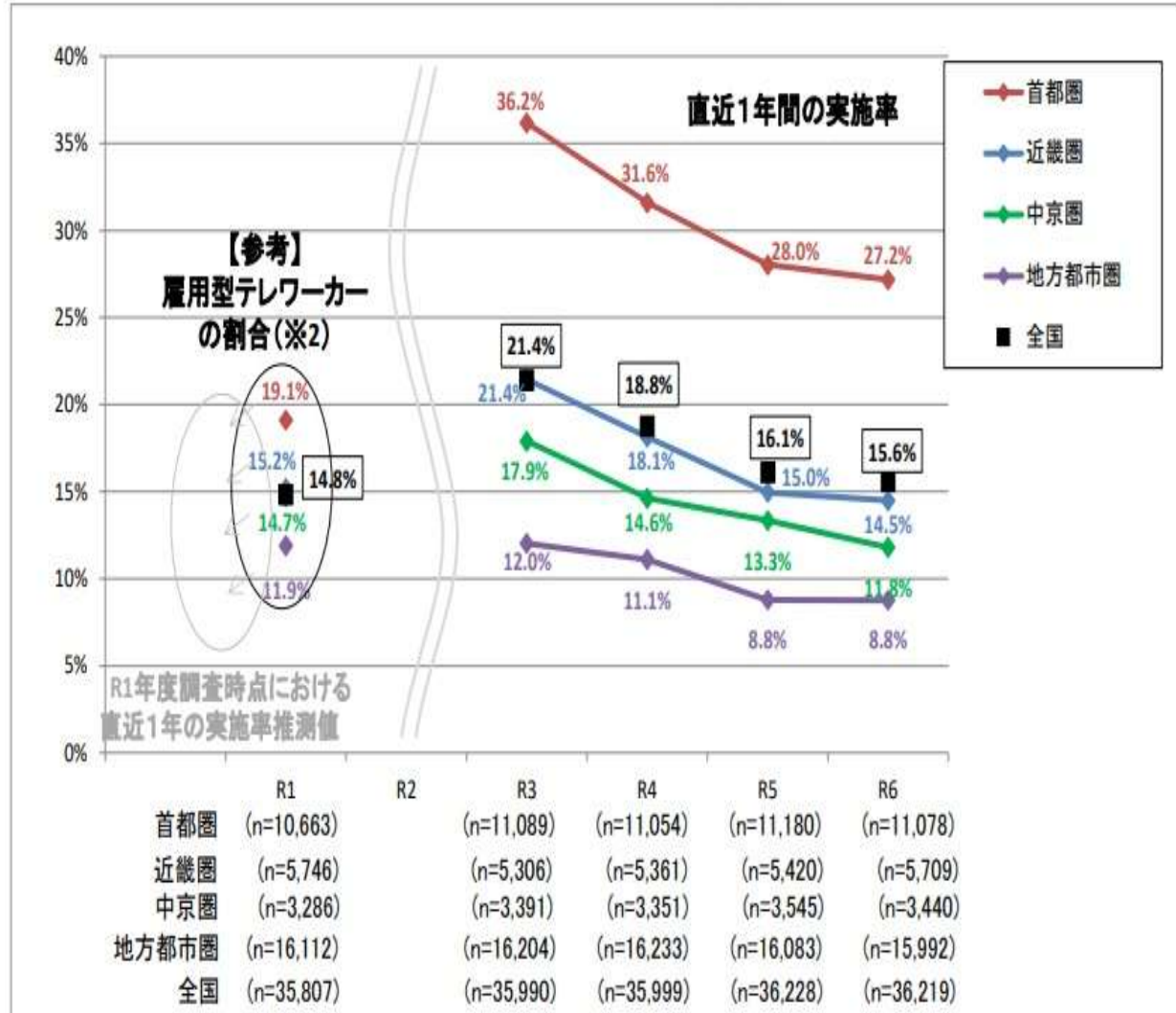
コロナ後、テレワークが後退しているのはなぜか

全就業者におけるテレワーカーの割合【H28-R6】



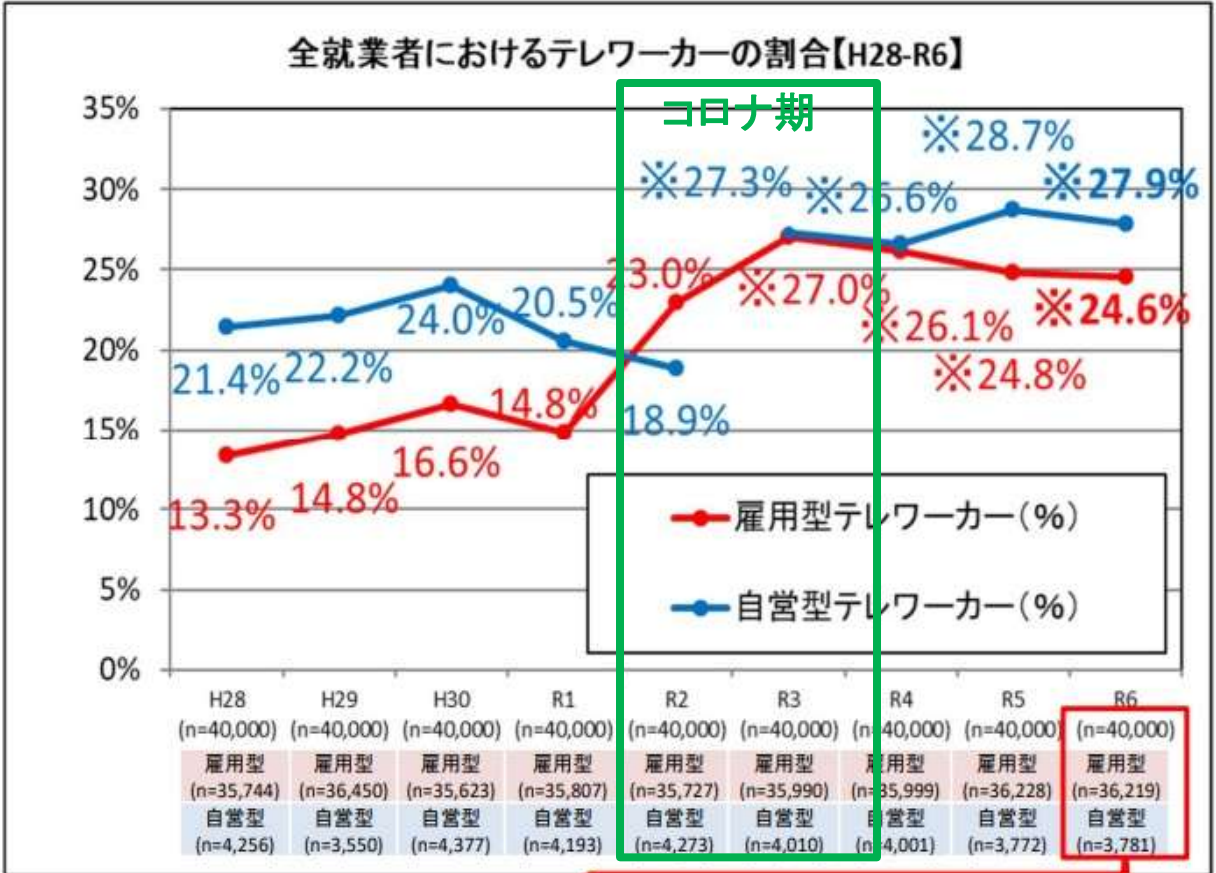
R6	雇用型			自営型		
	就業者数(人)	テレワーカー数(人)	テレワーカー数/就業者数(%)	就業者数(人)	テレワーカー数(人)	テレワーカー数/就業者数(%)
全体	36,219	8,905	24.6%	3,781	1,054	27.9%
男性	19,442	6,072	31.2%	2,418	650	26.9%
女性	16,777	2,833	16.9%	1,363	404	29.6%

直近1年間のテレワーク実施率【R3-R6】

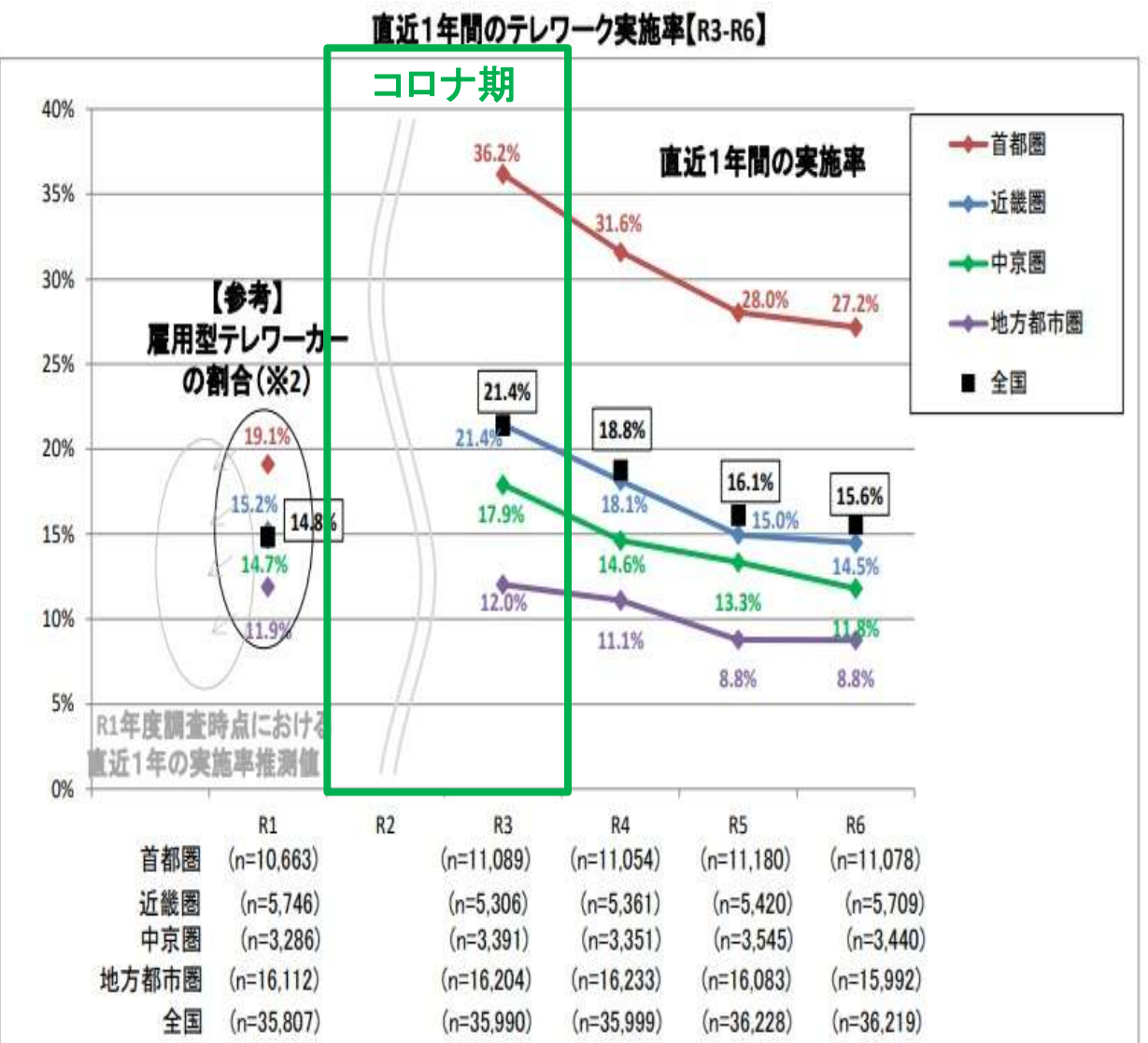


※2) これまでテレワークをしたことがあると回答した人の割合。「直近1年間の実施率」はこの値よりも低い。

コロナ後、テレワークが後退しているのはなぜか



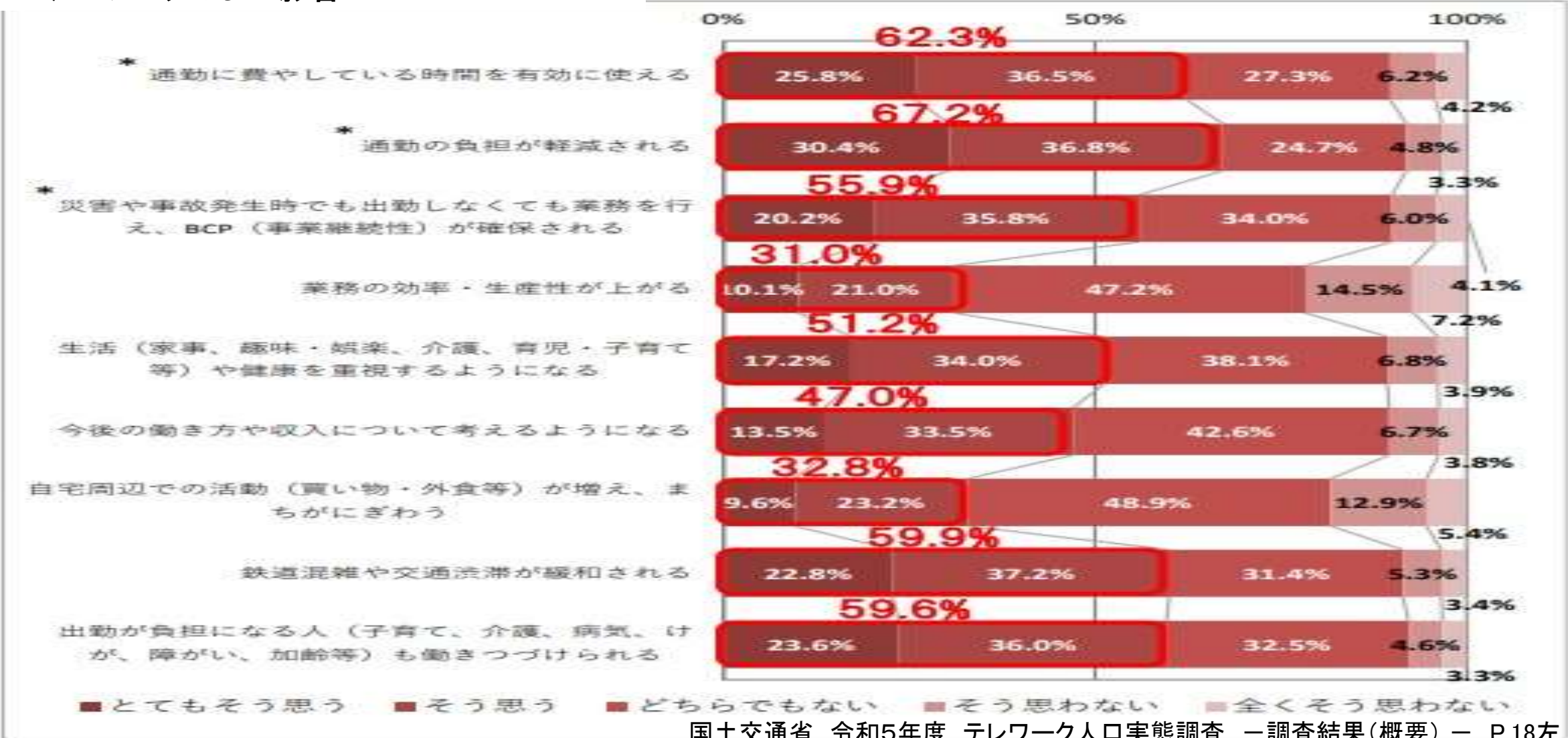
R6	雇用型			自営型		
	就業者数(人)	テレワーカー数(人)	テレワーカー数/就業者数(%)	就業者数(人)	テレワーカー数(人)	テレワーカー数/就業者数(%)
全体	36,219	8,905	24.6%	3,781	1,054	27.9%
男性	19,442	6,072	31.2%	2,418	650	26.9%
女性	16,777	2,833	16.9%	1,363	404	29.6%



※2) これまでテレワークをしたことがあると回答した人の割合。「直近1年間の実施率」はこの値よりも低い。

社員側は引き続きテレワークのメリットを感じているが...

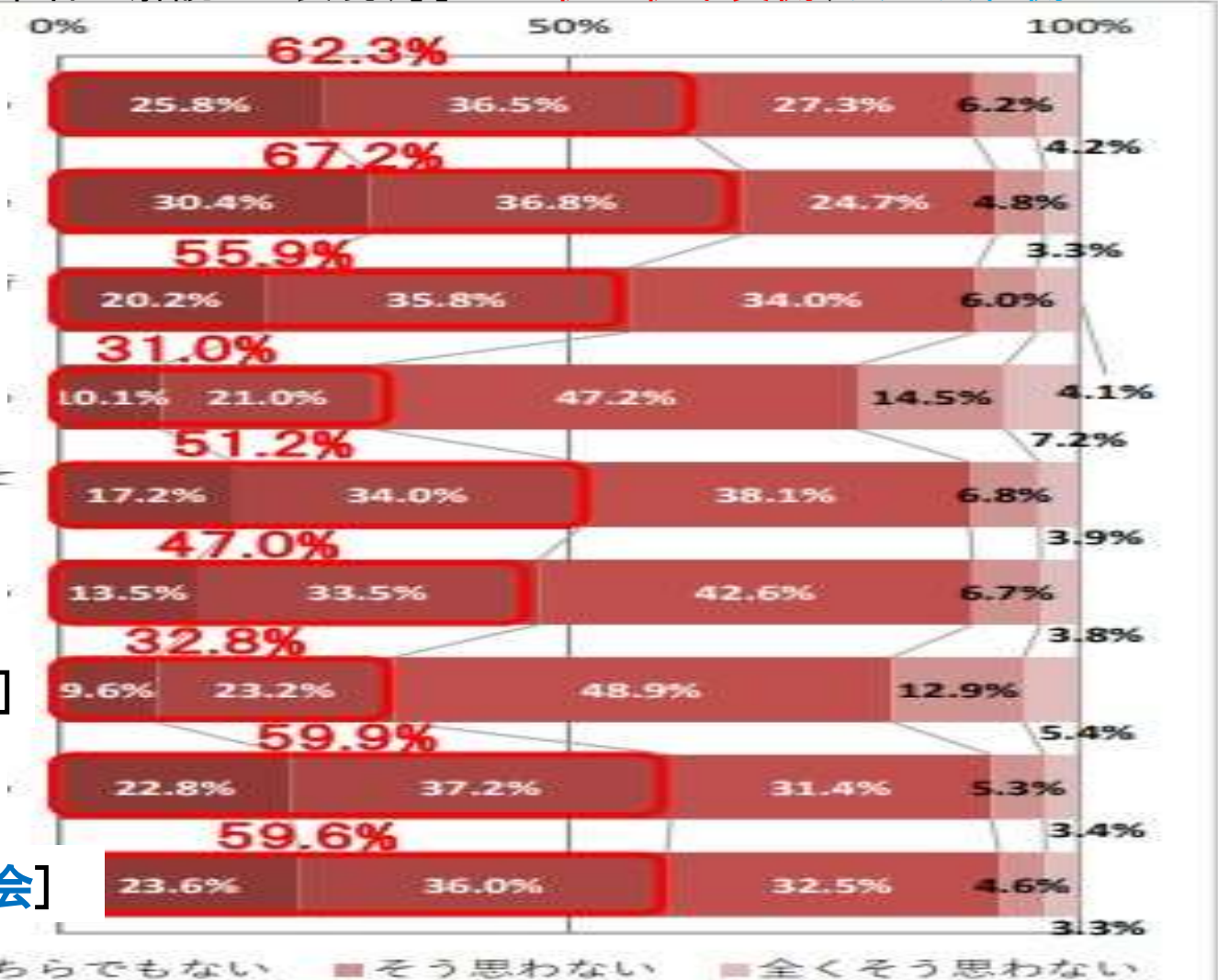
■テレワークのよい影響



社員側は引き続きテレワークのメリットを感じているが...

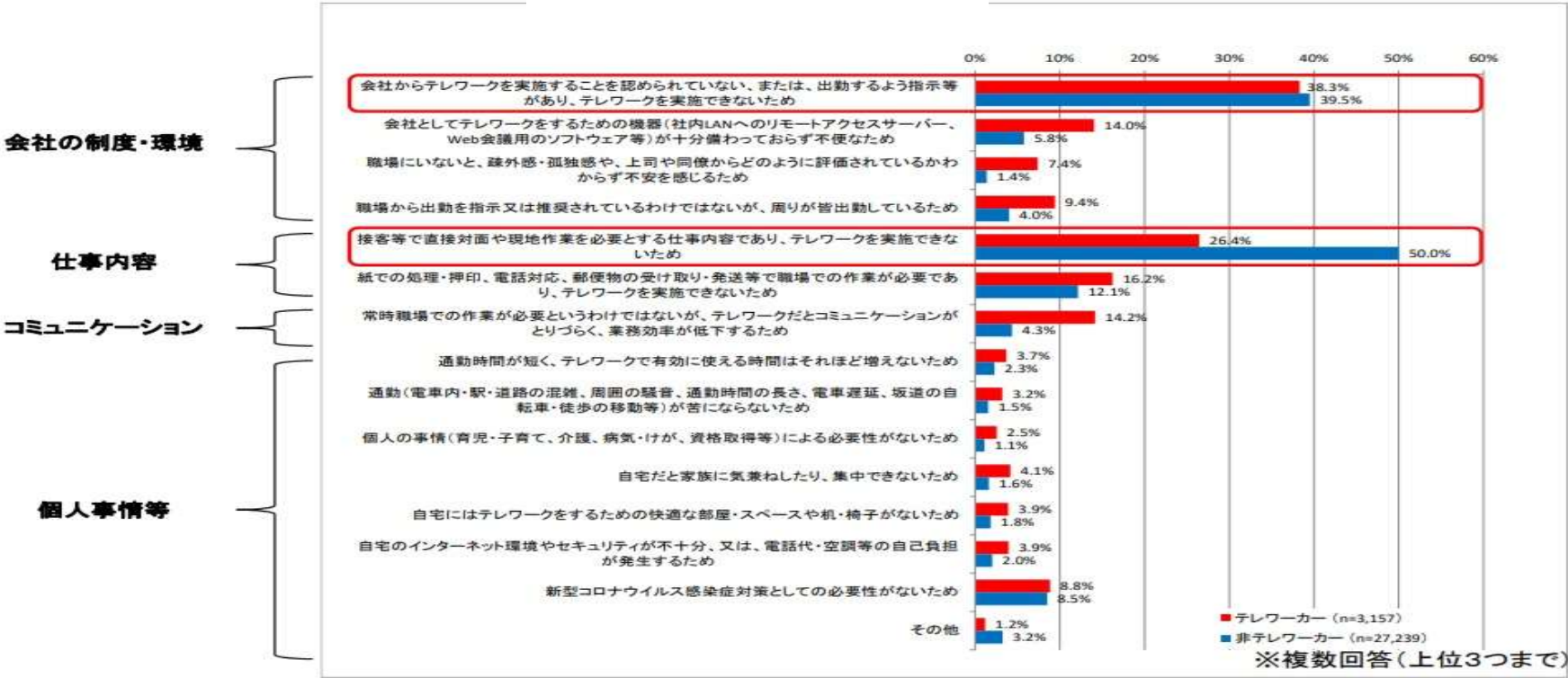
■テレワークのよい影響 ※以下、左の項目は筆者が解説した表現、[]内の 従＝従業員側、会＝会社側

- 2) 通勤時間が有効に使える [従]
- 1) 通勤の負担が軽減 [従・会]
- 5) BCP(事業継続性)が確保される [会]
- 9) 業務の効率・生産性が上がる [会]
- 6) 生活や健康を意識するようになる [従]
- 7) 今後の働き方や収入を考えるように [従]
- 8) 自宅周辺の活動が増えて街が賑わう [社会]
- 3) 鉄道混雑や渋滞が緩和 [社会]
- 4) 子育てや介護中の人も働き続けられる [従・会]



会社側はテレワークのメリットより、デメリットを感じているよう...

■テレワークを実施していない理由



会社側はテレワークのメリットより、デメリットを感じているよう...

1) 会社側が実質出勤を求める [会]

5) テレワークの環境が整っていない [会]

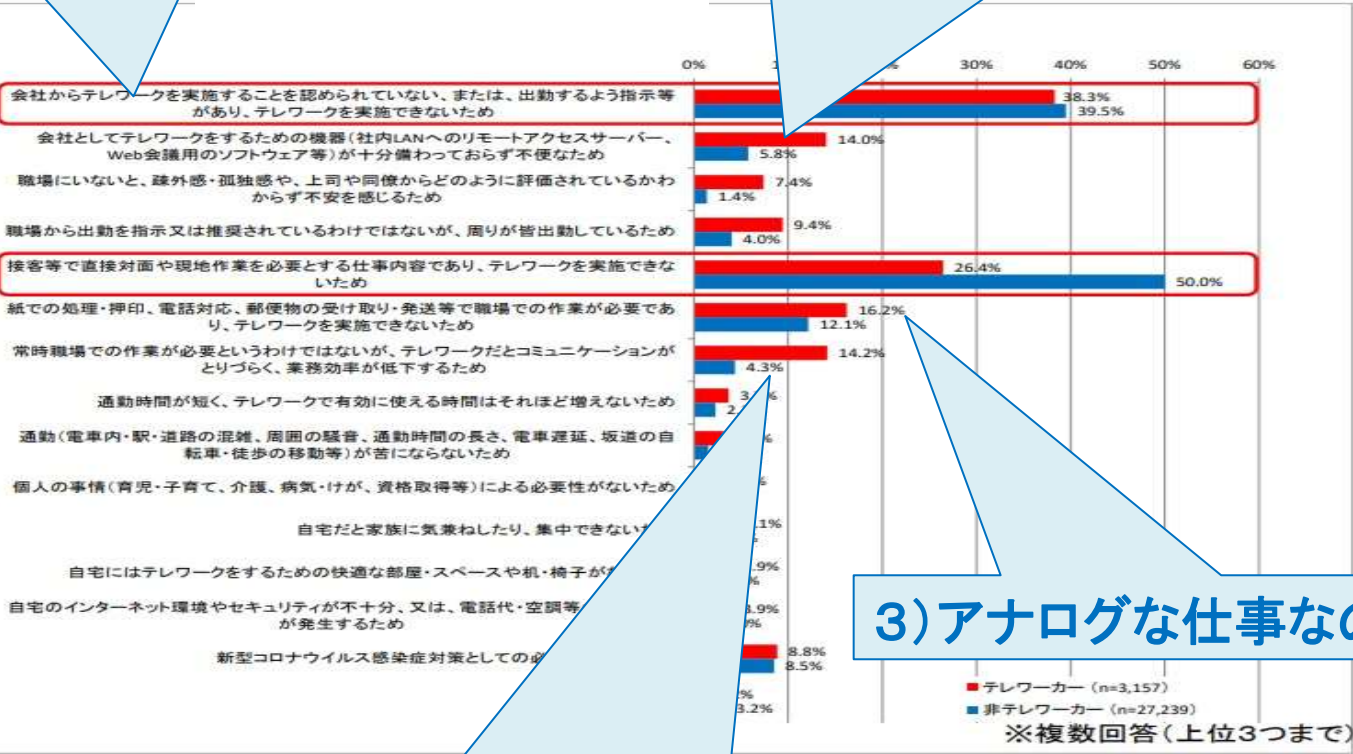
■テレワークを実施していない理由

会社の制度・環境

仕事内容

コミュニケーション

個人事情等



3) アナログな仕事なので難しい [会]

2) 接客等、仕事内容上難しい [会]

4) コミュニケーション取りづらく、生産性落ちる [会]

テレワークは社員だけでなく、会社のメリットも大きい

■ 日本テレワーク協会による社員側、会社側のメリット

【社員側のメリット】

- ライフ・ワーク・バランスの向上
- 育児・介護中の仕事(就業)継続
- 通勤時間削減による時間有効活用
- 多様な働き方の確保



【会社側のメリット】

- 働き方改革による経営改善
- 生産性の向上
- ダイバシティ(多様性のある)経営
- グローバル対応
- 優秀な人材確保、流出防止
- 事業継続性の確保(BCP対策)
- オフィスコスト削減



会社側は“発想の転換”が必要

社員にとってメリットがあるなら、選択肢の一つに取り入れるべき

- ・100%テレワークでなく、各社にベストな導入方法を選べばよい
- ・職種や人によって不公平感が出ないように広く取り入れる

「世界中の人が一瞬で繋がれる時代」、オンラインだと一体感が生まれない
なんてことはない！

- ・若者はバーチャル空間で、アバター同士で親しく繋がれている
- ・2024年以降に結婚した人の3人に1人はマッチングアプリ経由、増加中
- ・チームコミュニケーションは定期的に集中すればむしろ効率がいい



課題やデメリットを解決して、“チャンス”に変えましょう！

1 人材面で、【人材獲得】【離職防止】に有利に



- ・導入しないと導入している他社が有利に
- ・テレワークなら働ける優秀な人材の取りこぼし、育児や介護による退職防止

2 有事の【BCP(事業継続性)】に有利

- ・ふだんから慣れていればスムーズに移行＝レジリエンス(回復力)

3 【生産性向上】に有利

- ・テレワークによる生産性向上にはさまざまなノウハウと実践が必要

課題やデメリットを解決して、“チャンス”に変えましょう！

4 【社員の自律的な働き方】を実現でき、「AI時代」に有利

		人間が	
		できる	できない
AIやロボットが	できる	AI・ロボットに任せる	AI・ロボットに任せる
	できない	意思決定	経験・勘 未来予知 ⇒ 分析・予測

AI時代が進むほど…

意思決定＝“自律的に働ける”

社員のみが必要に

“指示待ち人間”は
不要になる

AIに **あなたはどうしたいの？** と聞いても答えられない

最後に…

テレワークは社員側に多くのメリットがある以上、
選択肢の一つとして広く導入していくべきです。

テレワークは社員側のメリットの裏返し(=【人材獲得】【離職防止】)
だけでなく、【BCP(事業継続性)】【生産性向上】を実現します。

さらには会社と社員が、AI時代に生き残る上で欠かせない
【社員の自律的な働き方】の実現にも繋がります。



ご視聴いただきありがとうございました！